

ジャパンアートマイル (JAM)



海外で作品を展示している様子です。メキシコでは作品を街に持ち出して「ダウンタウンEXPO」を行いました。

世界の子どもたちとの国際協働学習 アートマイル国際交流壁画共同制作プロジェクト

代表者：塩飽 隆子

創立年：平成 17 (2005) 年

ジャパンアートマイルの活動概要

ジャパンアートマイル（JAM）は、自国の伝統文化に誇りを持ち、グローバルな視野をもって自ら考え行動し、世界の人々と協働して世界の調和と平和に貢献する次世代を育てることを目指して、全国の学校の教育現場で「国際協働学習」の取り組みを支援しています。

ジャパンアートマイルが、文部科学省、外務省の後援事業として行っている「アートマイル国際交流壁画共同制作プロジェクト」（以下、アートマイルと表記）は、日本の学校と海外の学校がICTを活用して共通のテーマで協働学習を行い、学習の成果として一枚の壁画（15m × 36m の大型絵画）を共同制作する「国際協働学習」のプログラムです。2006年度にプロジェクトを開始、2013年度までに52の国・地域から23,602名の児童生徒が参加しています。今年の5月15日にはユネスコ本部（パリ）を訪問、アートマイルはユネスコのESD（持続可能な開発のための教育）の奨励プログラムとして位置付けられました。

今、求められる力

今、グローバルな国際社会で日本人に求められている力は、世界に開かれた広い視野を持ち、世界の人々と協働して持続可能な社会を築いていく力であり、21世紀を生き抜く力

です。それは、学校教育でも強く求められています。

授業でこの力を育むためには、実際に海外の学校とつながり、共通の学習テーマで、継続的に教え合い学び合う「国際協働学習」の導入が求められます。しかし、国際理解教育についてはこれまでいろいろな手法が紹介され、実践されてきましたが、継続して海外と協働的に学習する手法が少ないのが現状です。

「国際協働学習」を支える JAMの学校支援

アートマイルは、世界の学校とリアルにつながり、インターネットを使って双方向で継続的に学び合い、協力して一つの成果物を創り上げる新しい形の「国際協働学習」です。

初めて参加す教師でもこの学習を円滑に進めることができるように、JAMでは年間を通して様々な学校支援を行っています。

- ① 海外の相手校の紹介
- ② 国際協働学習のカリキュラムモデルの提示
- ③ 海外校と1対1で対話できる電子フォーラムの提供
- ④ JAMからの情報提供・教師間の情報交換の場としてメーリングリストを開設
- ⑤ アートマイルで使う英語文例集の提供
- ⑥ 壁画用キャンバスと絵の具の画材斡旋
- ⑦ 参加校の進捗状況を見守り、問題が発生した場合に即時対応するサポート体制



オーストラリアの小学校とテレビ会議で自己紹介をしています。「一生懸命話したら、僕の英語通じたよ!」「オーストラリアに友だちができたよ!」顔と顔を合わせて話をするると相手との距離が一気に縮まって友だちになります。(兵庫県赤穂市立原小学校)

ジャパンアートマイル (JAM)

アートマイルの特徴

〈世界に実在する相手とつながる〉

個と個がつながることは個人的な相互理解が深まるだけでなく、その国への信頼が深まります。アートマイルは世界平和につながる学習です。

〈プロジェクトベースの学習〉

知識を活かし、仲間と知恵を出し合い、課題・目的の達成のために具体的に行動し、必ず成果を出す学習です。

〈日本が世界をリードする〉

先に絵を描く日本側が最初から相手側をリードしなければ学習がスケジュール通りに進みません。アートマイルは、時には相手と交渉して世界をリードする学習です。

〈明確なゴールの必然性〉

最終的に壁画を一緒に完成させるという明確なゴールがあるため、それに向かう全ての学びに必然性があります。英語を使う必要、ICTを使う必要、自分たちの意思を明確に伝える必要があるため、モチベーションが上がり、学習意欲が持続します。

〈目に見える成果〉

学習の成果を壁画という目に見える形でアウトプットします。世界の仲間と共同制作することにより、大きな達成感と自信を得ることができます。

〈デジタルとアナログの融合〉

世界の相手とICTを活用してネット上で学習した後に、仮想ではなく実物の絵を描く

アートマイルは、デジタルとアナログが融合した学習です。子どもたちが生きていくこれからの社会は、デジタルとアナログのバランスが大切です。

アートマイルの学習の流れ

アートマイルは年間を通した学習活動の大枠が決まっているため、初めて参加する教師でも見通しを持って学習を進めることができます。

9月は自己紹介。10月は海外校と決めた共通の学習テーマについて調査したことや考えたことをフォーラムで共有。11月は協働学習したことをどのような絵に表すか相談し、構図と制作分担を決定。12月に日本側が先に壁画の半分を描いて海外校に郵送し、海外側が

年間の活動の流れ

- ＜参加申込期間＞
 - ・4～5月 参加申込→エントリーシート提出
 - ・6月 JAMより参加決定通知
 - ＜海外校の紹介＞
 - ・6月 JAMより海外の協働学習の相手校紹介
 - ＜協働学習準備期間＞
 - ・6-8月 アートマイル導入・テーマ調べ
海外校と協働学習スケジュールの調整・確定
電子フォーラム・TV会議など協働学習チームのチェック
 - ＜協働学習期間＞
 - ・9月 協働学習スタート 自己紹介・学校紹介・地域紹介
 - ・10月 テーマについて海外校と協働学習
 - ＜共同制作期間＞
 - ・11月 構図と制作分担を決定、日本側下絵の作成
 - ・11-12月 日本側の壁画制作
→半分完成した壁画を相手に送付
 - ・1-2月 海外側の壁画制作
下絵→本塗り→完成→鑑賞→日本側に作品送付
 - ＜まとめの期間＞
 - ・3月 作品鑑賞と活動全体の振り返り
→JAMに作品・写真・報告書を送付
- ※完成作品はJAMが保管し、国内外で展示



1月～2月に後の半分を描いて壁画を完成。鑑賞後、作品を日本校に郵送。日本側は3月に作品を鑑賞し、全体を振り返ります。

アートマイルで身に付く力

アートマイルでは、①自国文化を理解する力 ②異文化を理解する力 ③コミュニケーション力 ④情報活用能力 ⑤人間関係を作る能力 ⑥協働する力 ⑦主体的に学ぶ意欲 ⑧表現力 ⑨鑑賞力が育ちます。

世界に伝える相手がいることで、「自分のことをもっと知ってもらいたい」「相手のことをもっと知りたい」と湧き上がる気持ちだが、主体的に学び、考え、行動する態度を育て、教師が育てたい力が身に付きます。





東京都立田柄高等学校では1年生5クラスが美術の時間でアートマイルに取り組みました。



総合的な学習の時間で取り組む

アートマイルの国際協働学習は総合的な学習の時間で取り組むのに適しています。すでに決まっている各校の総合的な学習の時間の学習計画や学習課題を変更することなくアートマイルを単元に組み合わせることができま

す。従来から行っている地域を中心とした学習を海外校との国際協働学習に拡張すると、新たな視点で自分たちのことを見直し、世界を意識した広い視野で課題を捉えることができ、「探究的な学習」が深まります。

教科を超えた連携

教室や地域で育てている「生きる力」を、「グローバルな21世紀の国際社会を生き抜く力」に発展させることができます。

アートマイルは教科横断的な学習に適しています。国語、社会、図画工作、美術、家庭、道徳、英語、外国語活動などで、教科の壁を越えた学習活動を工夫することにより、各教科等の知識や技能が活かして働きます。

とりわけ図画工作・美術は、学習の成果として壁画を制作することから、他の教科等と



ウガンダの小学校で描いた壁画が横浜の市バスにラッピングされて走っています。(神奈川県横浜市立入船小学校)

子どもたちの意識の変化

子どもたちは、異質なものと出会ったものを考え始め、外の世界に触れて内なる自分に向き合います。

海外校とお互いに地域や国の文化を伝え合うことで、子どもたちは自分の地域や日本に誇りを持つようになります。

世界の同世代と一枚の壁画を共同制作することで、自分にも文化背景が異なる世界の人と協働して何かをすることができるとい

「自信」が持てます。

アートマイルで世界を身近に感じた子どもたちは、世界に開く広い視点で「将来の夢」や「自分の生き方」を考えるようになります。

今後の展開

国際社会はグローバルな人材を必要としています。今、学校教育でもそのことが強く求められています。ジャパンアートマイルは、世界の子どもたちとの国際協働学習であるアートマイルをESDのツールとして国内外でさらに広く展開し、21世紀を生き抜く日本人の育成に貢献したいと考えています。